

議会広報特別委員会議員派遣結果報告書

平成 22 年第 2 回定例会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

平成 22 年 9 月 8 日

上富良野町議会議長 西村昭教様

議会広報特別委員長 和田昭彦

記

1 調査の経過

議会広報特別委員会は、議会の活動をよりわかりやすく町民に知らせるための広報誌発行に関する調査研究のため、平成 22 年 8 月 25 日から 27 日までの間、北海道町村議会広報コンクールに入選している先進市町村の大空町議会及び音更町議会において調査を行った。

2 調査の結果

(1) 大空町議会広報編集特別委員会

調査テーマ 議会広報の編集について

町の概要 人口 8,180 人 3,143 世帯 (平成 22 年 5 月末)

調査の概要

- ・創刊年月日 平成 18 年 9 月 22 日
- ・名称 「議会だより(通称:おおぞらぎかい)」
- ・発行回数 年 4 回(2 月、5 月、8 月、11 月の末日発行)
- ・発行予算 1,210 千円/年(1 部あたりの単価は約 88 円)
- ・発行部数 3,450 部
- ・発行要領等 大空町議会広報発行に関する要綱(平成 18 年 7 月 25 日)
大空町議会だより編集方針・編集基準(平成 18 年 7 月 25 日)
大空町議会広報誌有料広告掲載要綱(平成 19 年 11 月 19 日)

大空町は、平成 18 年 3 月 31 日に合併した町であり、「公正・真実」の原則からできるだけ本会議の発言を簡潔明瞭な表現で掲載するとともに、議会報告会で説明をするなど、町民に読んでもらうための編集発行に努めていた。

議会広報の編集方針は、「公正真実を原則とする。議員自らが責任をもってあたる。論議過程など生の場面や議会活動全体の動きを伝える議会だよりとする。

記事の重点化、要約化により見やすく読みやすい紙面とする。大きい課題など、問題提起型の企画記事の掲載に努める。できる限り早期の発行に努める。」とし、発行されていた。

編集基準は、表裏面をフルカラー刷り、その他の頁は1色刷り、写真は町の広報担当者撮影の写真を使用していたが、できるだけ子供や人が写っているものを採用して、町民の目を引き付けつけるようにされていた。また、写真、囲み、寄せ、イラスト、一口メモ等を使用して、紙面構成やインパクトを重視した、町民に「読みやすい」「分りやすい」「親しみやすい」紙面構成に努めていた。

一般質問の記事は、一議員あたり1.5頁(1,600字以内)でより詳しく掲載されており、内容は質問議員が選択して事務局に申し出て、事務局が原稿を作成していた。

予算、決算、一般議案等の討論記事は、議員氏名を表記して、どの議員の発言かを分るようにしていた。

大空町議会では、事務局が原稿案を作成して印刷会社へ送付し、印刷会社がレイアウト作成した紙面を3回の委員会で校正し、最終校正の原稿を議長から承認を受けてから発行していた。

平成19年11月からは町民サービスの向上と関連経費の節減を目的に民間事業者等の有料広告を議会広報に掲載していたが、実態としては現在まで2件のみの広告掲載であり、応募数が少ないことが課題であった。(有料広告：3,000円/口。1枠は縦10cm、横8.45cmの大きさ。裏表紙の最下段に掲載している。)

また、広報編集以外の広報活動として、テレビ中継や議会ホームページの編集もしていた。

(2) 音更町議会広報特別委員会

調査テーマ 議会広報の編集について

町の概要 人口 45,562人 19,049世帯 (平成22年6月末)

調査の概要

- ・創刊年月日 昭和47年12月
- ・名称 「音更町議会だより」
- ・発行回数 年4回(4月、7月、10月、1月の町広報発送日に発行)
- ・発行予算 2,865千円/年(1部あたりの単価は約48円)
- ・発行部数 14,800部

音更町議会は、平成12年3月に議会だより見直し大綱を策定して「議員自らが責任をもって編集にあたる。論議経過など生の場面や議会活動全体の動きを伝える。記事の重点化、要約化を進め、見やすく読みやすい紙面とする。議会側の一方通行でなく町民参加型の双方向性の紙面とする。大きい課題など問題提起型の企画記事の掲載に努める。早期発行に努める。(定例会後の1カ月)」の6項目を編集方針として、各会派から選出された4名を含む委員5名体制で編集発行されていた。

音更町議会広報は、表裏面が2色刷りであり、表紙は季節感、話題性があるもので特に町民(人物で動きのある)の写真を意識的に採用したり、町民の声(企画記事)を掲載して、町民の目を引き付けつけるようにされていた。

さらに、議会広報のモニター制度を実施して、広報発刊ごとに回答を得ていた。(モニター5人(男性3人、女性2人、委嘱期間は1年。謝礼は年間5,000円)

一般質問の記事は一議員あたり 0.5 頁（200 文字以内）であり、質問項目数を 1 から 2 項目までと制限していた。

議会広報編集の向上ため、北海道新聞、じゃらん北海道の民間誌記者との勉強会により、紙面レイアウト、見出し、写真の使い方などを町民が読みやすいよう、議案等の内容を極力要約した簡略記事とされ、特に写真を大きくして人物が写っている写真の角を丸めるなど工夫していた。

一般質問の議会日程中に休憩時間をとって、傍聴者から議席で質問（3 分以内程度）をいただき、理事者席に副議長、各常任委員長が着いて答弁する「議場でひとこと」という企画で町民との意見交換を行い、その内容も議会広報に掲載していた。（一般議員、町長、各課長等は傍聴席でその様子を観覧している。）

また、町長の行政報告と執行方針を必ず掲載していることや各会派の視察研修の報告などもあり、我が町とは違う点も多いが、読みやすくわかりやすい面を重視している基本姿勢は同じであった。しかし、基本方針の中で議員自らが責任を持って編集にあたることとしながらも、議会事務局が大半の原稿作成作業を行っている点は、我が議会広報と違っていた。

音更町は、帯広市のベッドタウンとして年間約 600 人の人口が増加しているが、職場と居住地が違うことなどから、町内会加入への意識が薄く、加入率は約 70% であった。議会広報は、町広報といっしょに町内会長に発送し、町内会を経由した配布のため、加入世帯のみにしか配布されておらず、そのため発行部数が町の全世帯数よりも少ない実態であった。未加入世帯へは、公共施設やコンビニエンスストアに設置（10 部程度）してフォローしていた。

まとめ

今回は北海道市町村議会議長会主催の議会広報研修会と連動した先進地調査としなかったため、この調査に先立って、本委員会として全国町村議会広報研修会（平成 20 年 2 月）のビデオによる自己研修を行なってから、北海道町村議会広報コンクールに入選している大空町議会と音更町議会の取り組みを調査した。

両町議会の広報委員会とも新人議員が多数を占め、編集作業は事務局と共同した中で進められ、我が町議会広報のように記事の抽出、原稿作成、取材・写真撮影の全てを広報委員が主体となった編集ではなかったが、議員自らが責任をもって編集にあたり、読みやすく分かりやすい、町民と議会を結ぶ広報誌を発行する姿勢は共通のものであった。

この調査により、議会広報にとって基本的に必要な編集方針、企画の立て方、記事の書き方、文章・用語・表記、レイアウトなど議会広報のあり方について再認識した。

議会広報は、一般質問、議案と審議、議会活動、住民登場の記事を柱として構成し、議決結果や議案内容の説明だけでなく、審議内容や経過など質疑や討論の議事を公開する紙面づくりに努めなければならない。特に住民の顔や声が出るような企画紙面に心がけ、具体的で記事を読んでみたくなるような見出しづくりと、簡潔明瞭で分かりやすく正確な文章で編集された議会広報を追求していかなければならない。

議員がつくる読みやすく読みたくなるような議会だよりを基本姿勢とし、ありのままに、住民とともに、分かりやすい議会広報の発行に向け、さらなる研究と努力が必要である。